



◇ 経営環境

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症拡大の防止と社会活動の正常化を図るなか、ウクライナ情勢の長期化、円安の影響などによる原材料価格の高騰や物価の上昇等により、先行き不透明な状況が続いております。

食品小売業界におきましては、内食需要も落ち着き、商品価格の相次ぐ値上げにより消費者の節約志向が一層強くなるなか、ドラッグストアなど他業種の食品取り扱いが増加傾向にあることや、宅配サービスの拡大等の業種や業態を越えた競争が激化しております。加えて、光熱費や原材料、包装資材等の各種コストが上昇し、厳しい経営環境が続いております。

◇ 営業概況と業績

当社グループといたしましては、地域に密着したスーパーマーケットとして、魅力ある店舗づくりを心掛けてまいりました。地元の商品や食材を積極的に取り扱うと共に、付加価値の高い商品を生鮮部門や惣菜部門を中心に提供し、商品力の強化に努めてまいりました。また、全店で楽

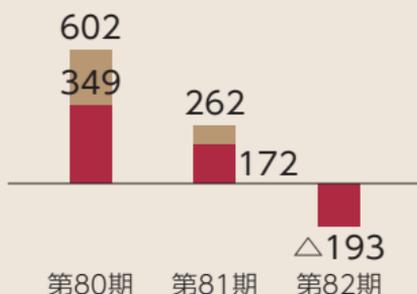
■ 連結決算ハイライト

■ 通期 ■ 中間期

営業収益 (単位:百万円)



営業利益 (単位:百万円)



天ポイントを導入して販売促進の強化を図ると同時に、既に導入済のPayPayに加えて楽天ペイの取り扱いも始め、お客様の利便性向上と集客力の強化に取り組んでまいりました。

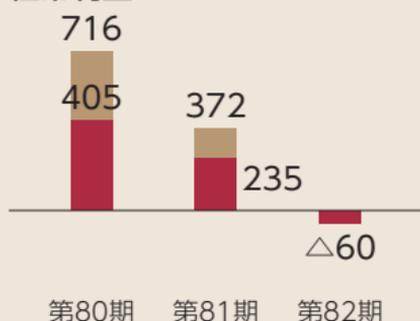
業務改善の取り組みとして業務の見直しを推し進めるなか、SDGsの観点から発注精度の向上を図り、食品廃棄ロスの削減にも努めてまいりました。

以上の結果、当中間連結会計期間の営業収益は160億86百万円(前年同期比3.7%減)、営業損失はエネルギー価格の高騰による光熱費の著しい増加が大きく影響して1億93百万円(前年同期は営業利益1億72百万円)となり、経常損失は60百万円(前年同期は経常利益2億35百万円)となりました。なお、親会社株主に帰属する中間純損失は1億10百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益2億87百万円)となりました。

株主の皆様におかれましては、今後とも一層のご支援、ご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

代表取締役社長 梶川 勇次

経常利益(単位:百万円)



親会社株主に帰属する
中間(当期)純利益
(単位:百万円)

